



本で世界をつなぐ

金沢大学人間社会学域学校教育学類附属中学校 3年 關 まこ

3年前、松任図書館で1冊の小さな本に出会った。薄くって小さな本だったが、どんどん本の中に吸い込まれていった。その本の名前は「あなたが世界を変える日」当時の私と同じ12歳の子が、世界中の首脳の前で「どうやって直すか分からないものを壊し続けるのはやめて下さい。」と訴えた、伝説のスピーチの本だった。

私と同じ年の子が世界の事を考えている。凄いと思うと同時に、何も考えずに生きてきた自分が少しだけ恥ずかしく思えた。その時からだろうか、私が世界について考えるようになったのは。あれから3年、私は沢山の本を読み気付いたら有に100冊は超えていた。地球温暖化と懐疑論、生物多様性、不都合な真実、おーいでてこーい、ミドリムシ、もったいないばあさん。子供向けから大人の本まで、そう私に何ができるかを探りながら。

ある日私は1冊の本に釘付けになった。原発について書かれた本だった。今まで、原発はCO₂を排出しないクリーンエネルギーだと信じていた私を凍らす程の内容に、知る事の大切さと、知らない事の恐ろしさを教えられた。

本ってすごいと思う。一つの疑問に対しあらゆる立場の答えを与えてくれ、私達に考える事の大切さを教えてくれる。不安な時、迷った時、勇気が欲しい時、いつも私の隣には本があった。そして私は、本から沢山の力と、未来への希望を貰っている。この感動を辛い経緯をしている子供達に、移動図書館のような形で届けたい。各国の子供達からおすすめの本を1冊ずつ提供して貰うだけで、世界中の子供達の心が語った夢の図書館が出来上がるのだ。

今は読み書きができなくても、本を手にする事で、何て書いてあるのかを知りたくなる。音読により場面が想像でき、自分も字が読めるようになりたいと思う。そしていつか読めるようになった時、目に見えないものを信じる事を練習し夢の扉を開けてほしいと思う。世界中の子供達と貧困国の子供達を繋げたい、希望を失っている子供達にこんな世界もあると知ってもらいたい。そして大人になった時を夢見てほしい。現実を踏まえながら、現実を超えるには本が必要である。

私に今できる事は、まず私と同じような考えを持っている子供達と交流し、日本から世界へのネットワークを広げ、子供達が運営する子供NGOを起業する事だ。そして生きたいと思える本、希望が持てる本、勉強したくなる本、知りたいと思える本などをそれぞれの国の言葉で音読し、本と共に貧困国の子供達に届けられたら、いつの日かこの活動が、日本から世界へ、子供から子供へ繋がり、将来を笑顔で語る子供達が増えるのではないかと思っている。

そして、こんな小さな積み重ねが、人を動かし、笑顔を生み、未来の大きな変化に繋がると、私は信じている。